

いごのぼり

一 いらかの波と雲の波

重なる波の中空を
なかぞら

たちばなかおる朝風に

高く泳ぐやこいのぼり

二 開ける広きその口に
ひら

ふねをものまん様見えて
さま

ゆたかにふるうおひれには

物に動ぜぬ姿あり
すがた

三 ももせのたきを登りなば

たちまちりゆうになりぬべき

わが身に似よや男子と
おのこ

空におどるやこいのぼり

言葉のポイント

いらか …かわら屋根
たちばな…みかんの仲間

ふねをものまん

…ふねまでのみこもつとまね
様見えて …様子に見えて

物に動ぜぬ…いろいろなことこいこい、
あわてたりおどろいたら
しなこ

ももせ …たぐさんの急な流れ

なりぬべき…なるだろこ
わが身に似よや

…わたしのようになつてほこい
男子 …男の子

教科書P. 8～9の写真をよく見ると、かわら屋根のお家があるよ。まるで波のようにかわらが重なっているね！

